



静脈注射Ⅰ・Ⅱ

ー基礎から学ぶ静脈注射ー

2024.5.30-5.31



講義

新卒者が「静脈注射Ⅰ・Ⅱ」を受講しました。
講義では、薬剤師より『注射剤に関する基礎知識』、業務担当副看護部長より『看護師等による静脈注射実施の法的解釈の経緯と看護業務の法的位置づけ』、看護職キャリア支援教育担当副看護師長より『静脈注射の基礎知識と手技』について講義がありました。また、集中ケア認定看護師が作成した『PICCカテーテルの管理』について動画を視聴しました。



業務担当副看護部長



薬剤師



講義・演習から感じたこと

- 静脈注射を実施する責任を自覚した
- 患者役を体験し、静脈注射は
侵襲を伴うケアであると改めて感じた
- 7R確認や患者観察、
確実な知識・手技獲得の重要性を学んだ



翼状針 ～留置から抜針まで～

演習では、翼状針の留置、固定、抜針を行いました。
血管や神経の走行を踏まえながら、安全かつ患者さんの安楽を考え、穿刺部位を選定していました。

実際に研修者同士の腕で穿刺し、7R確認や丁寧な声掛けをしながら実施することができていました。



側管注の演習では、腕モデルを使用し、薬剤の注入を実施しました。薬剤注入前後の生食フラッシュと陽圧ロックの目的の違いや手技についても学びました。

薬剤に応じた投与速度や作用・副作用を確認し、手技や患者説明につなげることができていました。

側管注 ～ワンショット～

